

会報 92号

発行 日本介護福祉士会静岡県支部
一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)

「今こそ発揮!チーム力!」 ~今だからチャレンジ!これが静岡の底力~

ケアコン
2020

介護技術コンテストリモートで開催!

~ケアコンテスト競技の様子(競技順)~



特別養護老人ホーム 白扇閣
中村 優美 さん



特別養護老人ホーム 白扇閣
清水 舞衣 さん



介護老人保健施設 楽寿
櫻井 由紀子 さん



特別養護老人ホーム 楽寿の園
芦澤 理子 さん



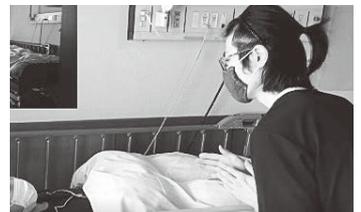
ハートフルホーム有東坂
土屋 かれん さん



小規模多機能ホームみのり
佐野 雅子 さん



特別養護老人ホーム 丸子の里
池野 史明 さん



介護老人保健施設 さいわい
恩田 浩希 さん



介護老人保健施設ユニケア岡部
田辺 香奈 さん



介護老人保健施設みくらの里
大澤 由美子 さん



最優秀賞(県知事賞)・会長賞

特別養護老人ホーム楽寿の園 芦澤理子さん

<講評>利用者の体調や気持ちに寄り添ったやさしい声かけ、リウマチの痛みに配慮したケア、何より利用者の好きな曲を流してコミュニケーションをとることでリラックスした状態でスムーズなケアを行っていたことが印象的でした。

受賞者感想

「こころをかたちに…」

介護技術コンテストへの参加は、日々の介護を改めて振り返り、私自身が向上できる良い機会となりました。課題の人物像をアセスメントする中で、病状を深く理解するために、看護師やリハビリ職員に相談し、痛みに対する配慮の仕方や、福祉用具の活用などの助言を頂きました。人物像の日々の様子をまとめるうちに、よりモデルを身近に感じる事ができ、その思いに寄り添うケアをどの様な形で表現するかを、深く考えました。

先輩職員の方々には、ご利用者の視点に立ち理解しやすい表現の仕方や、細部にわたる思いやりのあるケアと一緒に考えて下さり、温かい応援は本当に心強かったです。貴重な経験を得ることが出来ました。また、コロナ禍において様々な工夫をし、コンテストを開催していただいた介護福祉士会様にも感謝申し上げます。今後も、思いやりの笑顔で心をかたちにしたケアを大切にして努めて参ります。ありがとうございました。

特別養護老人ホーム楽寿の園 芦澤 理子

仲間から応援動画が届きました



 参加者の介護に対する思いはそれぞれですが…「利用者さんの心身の状態に応じた声かけ」「体調の変化や小さな気づきを大切にする」「思いやりある笑顔と言葉づかい」等、コミュニケーションの大切さをよく理解されていました。コミュニケーション能力を現場でフルに発揮し、ますます介護技術に磨きをかけていってください！ 



審査員コメントの様子

ケアコンテスト実行委員

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今まで当たり前に行っていたことができないというジレンマを抱えながら、介護現場の最前線では感染症対策を徹底しながら日々利用者の生活支援のため奮闘している介護職員の姿があります。その姿を多くの方に知っていただきたい、「このような状況下でも私たち介護職は頑張っているという底力を静岡から発信したい」という強い想いと、頑張っている仲間へエールを送りたく、初のオンラインによる介護技術コンテストを開催しました。

今回は、課題を一つに絞り、各施設にて競技者、モデルの選出、ケアの実践を撮影していただき、動画の審査を行い、10名の方を選出いたしました。コンテストの最終審査は11月7日(土)に施設と審査会場を中継し、審査員と競技者のディスカッションや感想などzoomを通して行い、今回の競技で行われたケアの真意を確認させて頂いたことで多くの気づきを得ることができました。

また、参加施設のPR動画は、利用者や介護職員の日々の様子がうかがえる心温まる動画を提供していただき、心から感謝申し上げます。各施設が丸となり今回のコンテストに挑んでいたことが伝わってきました。

そして、高校生のPR動画では未来の介護福祉士の頼もしい言葉に私たちも介護福祉士として今後、手本となる活躍をしていかなければと改めて感じました。今回のケアコンテストの様子は、静介HP(shizukai.jp)よりYouTubeダイジェスト版で配信しています。各施設のケア動画も配信していますので是非チェックしてみてください。ご協力いただいた全ての施設とPR動画に参加して下さった高校生の皆様、本当にありがとうございました。ケアコンテスト実行委員会では来年度開催予定の第10回大会に向けて再び始動いたします。





2020 介護の学舎開かれる!



「新型コロナウイルス感染症における介護現場の諸問題」 開催日：12月5日(土) 13:00~15:00

介護の学舎も第4回を迎え、当初は熱海の趣ある会場を考えていましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日常の全てが大きく変わったため、新生活様式を意識しての開催となりました。Withコロナ時代の中での取り組みや具体的な事例など情報交換しながら学んでいくことを目的に、聖隷クリストファー大学の横尾恵美子先生、野田由佳里先生をアドバイザーに迎え、とても興味深い話が展開されました。

第1限目は実行委員から介護現場の現状と対策の報告、第2限目ではグループに分かれての交流会です。参加者が現場で取り組んでいることや思っていることを自由に発言しました。中でもコロナ禍での看取りの3つのポイント①時間②空間③人の工夫が改めて重要であること、コロナ禍を通して普及してきたリモート、この方法をぜひ子育て中の職員に負担になっている職員会議に活用すべき等働き方の見直しに生かすべきという前向きな意見もありました。なかなか他事業所との情報交換ができない時期、参加してよかったとの意見が多く聞かれ、参加の皆さまには、有意義な一日になりました。

なお、オンラインで参加できない方は、聖隷クリストファー大学をサテライト会場として参加されました。



出前講座

「リモートで届け!新出前講座!!」

毎年実施している県の委託事業の「出前講座」が、このコロナ過でどう行えるか委員会で検討をかさね、今年度はリモートでの講義形式という方法で実施を始めています。講座も8講座を選択し、研修時間も60分に短縮するという新たな試みを始めました。希望される介護事業所職員の皆様にはご不便をおかけしますが、「介護の質の向上及び介護職員の職場定着を促進することや、ケアの振り返りが出来るよう情報を交換」が一人でも多くの方々に伝わるよう、講師の皆さんも新たな取り組みに臨んでくれています。今後リモート環境が難しい事業所の方々にも届けられるようDVDの作成も計画しています。

これからも各事業所様・職員様の興味や関心、日々の業務に役立てていただける講座の派遣について取り組んでいきたいと思ひます。ぜひ多くの受講申し込みをお待ちしています。

出前講座委員長 長倉 浩之



11月に湖西市の日ノ岡グループホーム・デイサービスさんとリモートで繋ぎ「接遇」の出前講座を行いました。通常ですと事業所に出向き、その場で演習盛りだくさんの講座を行うのですが、今回は講義を中心とし、一方通行にならないように途中画面を通して受講生との会話のキャッチボールを行い、少しでも臨場感のある講座になるように配慮しました。対面でのグループダイナミクスの効果は薄まりますが、安全な環境で学ぶことが出来るメリットは大きく、今後もリモート研修のニーズは高まると思ひます。まだまだ発展途上中ではありますが、リモートでもより良い研修が行えるように、継続的な人材育成が出来るようにブラッシュアップを図っていきたく思ひます。

出前講座委員 講師 櫻井 知世

災害対策委員

新型コロナウイルスで新たに挑戦すべき課題

～これからの災害支援 笑顔になる為のBCP～(Business Continuity Plan＝事業継続計画)

10月の事です。静岡市で介護職員の感染が確認されたとの連絡が入りました。クラスター発生の場合はボランティアの応援が必要と……。同時に自身が感染したらとの思いが巡ります。

新型コロナウイルス感染症も災害であり、状況により福祉災害ボランティアの派遣は必要です。介護福祉士として感染防止対策の専門的な知識(スタンダードプリコーション)は学んでおり、感染するリスクをマネジメント(回避)しながらボランティア活動は行っていくと決断しました。

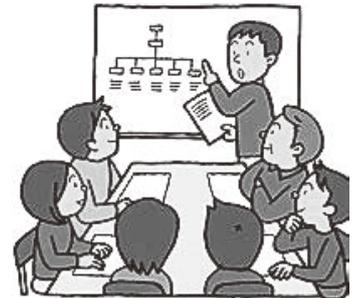
厚労省通知でBCPという言葉が聞きます。法人の管理本部等で対策しているイメージですが、BCPとは「スタッフの身の安全の確保とご利用者の日常生活への早期回復!」とあります。BCPの最大のメリットは、災害マニュアルを作成しておくことで、発災後も介護が必要な方やその家族が必要とするサービスを提供し続け、介護事業所としての社会的な責任を果たすとあります。それは、災害の被害から早期復旧し社会に介護サービスを提供し続けることを目的としていますが、その前提にあるのは社員の身の安全です。事業継続を担うスタッフの無事が早い復旧につながると明記しています。

BCPは策定をして終わりではなく、実際の災害時に意味をなすものにするのが大切です。そのためには計画の策定自体を目的にしない、実現可能な計画立案、また誰が見てもわかる簡潔なマニュアルを作成することです。そして「介護過程のプロセス」この思考過程がBCPの策定に欠かせません。災害発生後、利用者の日常生活を支え安心して生活が送れるよう、スタッフの安全を担保しながらBCPを策定する。その事で災害時のボランティア活動が可能になるのではと思います。

本部等が策定するBCPがケアマネジメントとするなら現場レベルでのBCPは介護過程の思考でありプロセスそのものです。つまり、サービスごとのBCP策定やBCPを意識した介護計画書の作成が新型コロナウイルスで新たに挑戦すべき課題であり介護福祉士としての新たな役割なのかもしれません。

何よりも大切な事は仲間と繋がっている意識。笑顔になるために……。

災害対策委員 駿東・田方ブロック 坂下 裕



高齢者福祉オンライン海外研修に参加して ～スウェーデン福祉の今を体感～

1日目：11月25日／2日目：12月2日

このほど特別養護老人ホーム白扇閣様のご好意より、会員に向けてオンライン海外研修参加の機会をいただきました。

日本同様スウェーデンでも介護人材不足は深刻であり、色々な国籍の方が働かれています。職員の文化や習慣の違いに対してはしっかりと教育をされていて、楽しく働けるよう各職員の国の料理を提供したり利用者や職員間でのコミュニケーションも図られています。殺風景だった以前の環境を、利用者が居室から出たいと思う環境に作り替え、絵を描く部屋や図書室、園芸ができるスペース等が作られました。また、自宅にいるような環境、廊下に街路灯や自分が住んでいた街並みを思わせるような、大掛かりな雰囲気づくりにスウェーデン福祉の今を体感することができました。

理事 齋藤 升美



職場紹介

医療法人社団あすま会 介護老人保健施設 平安の森

〒430-0918 浜松市中区八幡町181



介護老人保健施設平安の森は、浜松市の中心部に位置し公共交通機関にも充実した都市型の施設です。

3つの安心の理念を掲げ、①患者様が安心できる施設。②ご家族が安心して任せられる施設。③職員が安心して働ける施設。の理念のもと、利用者様が住み慣れた地域で安寧な生活が送れるようにと地域社会の実現を目指しています。特に入所してからの充実した機能訓練室の設備、専門スタッフによる在宅復帰を目指すリハビリ、個々の能力向上につながるように専門職だけでなく、介護士による集団リハビリや生活リハビリに取り組み自立支援を行っています。

また、多職種連携にも充実し専門職が個々の視点でカンファレンスなど情報共有を重視することで、一人ひとりの利用者様の安心安全を守る事ができる施設となっています。在宅復帰する利用者様たちが最後に「ここにきてよかった」と笑顔で帰られると、職員たちのモチベーションアップにもつながります。利用者様は自宅に帰る事だけでなく、帰った後の不安もあります。そのため、帰った後も今までのような生活ができるように訪問リハビリや通所サービス、ショートステイなどの能力を維持していく施設が身近にある事で、利用者様の在宅復帰への自信にもつながっていると思います。浜松の象徴でもあり新しいことにチャレンジする方言「やらまいか」という言葉があります。ここ平安の森でも常に意欲を持ち変革していく職員でやらまいか委員会を設立。委員中心となり新しい知識やケアを取り入れ「まず行動しよう、やってみよう」という前向きな心意気で遠州のからっ風にも負けない新しい風を入れ挑戦しています。それぞれの個性を尊重し合えるチームワーク力の良さが発揮でき、さらに利用者様の笑顔と職員の働きやすい環境がさらなる成長と安心につながっています。

介護老人保健施設 平安の森 介護士長 袴田 栄子



新しい仲間ご紹介

(52名) <会員番号2205007~2205051>



■富士・富士宮

渡 辺 凌 弥
辻 友 美
下 雅 意
石 川 宏 美
■駿東・田方
金 井 宏 美
萩 島 了 太
殿 田 みさを
芳 野 智 美
須 藤 茜
山 下 健

渡 辺 光

杉 田 衣 世
小 澤 一 代
吉 田 裕 美

■熱海・伊東

中 川 和 美
小 長 谷 邦 子
足 立 達 矢

■静岡市

介護福祉士会
千 葉 道 江
中 村 優 美

後 藤 友 紀

柴 山 和 也
島 村 貴 文
宮 谷 佳 亜
塚 本 育 江

平 岡 正 光

梅 野 雅 子
清 水 美 来
藤 井 和 美
海 野 好 希

片 井 誠 恵

永 野 友 紀 子

山 本 彩 乃

繁 田 真 奈 美
望 月 孝 章
花 積 薫 美

佐 野 晴 美

■志太・榛原

杉 山 岳 志
小 野 佳 津 実
増 田 浩 久
河 合 容 子

横 山 仁 美
村 松 香 織

■中東遠

八 木 麻 里
大 杉 加 江 子

■浜松

鈴 木 麻 子
鈴 木 麗 花
菅 谷 恵 美 子
中 村 恭 子
吉 永 晴 美
前 田 理 栄
鈴 木 真 由 美
大 栗 晃 久

広報委員紹介



委員長 浜松ブロック 村松 正広
 今年度より広報の担当となりました。ひとりでも多くの方に喜ばれ、「楽しい!役に立つ!」と手に取って貰える有意義な広報誌にしていきたいと思っています。



駿東田方ブロック 坂下 裕
 私の抱負は、1つです!最後まで読んでいただける文章を書く!です。そのために、丁寧に感謝の気持ちを忘れずに作成してまいります。



志太・榛原ブロック 鈴木 健
 前年度はホームページをリニューアルしました。会員に向け新たな情報発信の基幹として、会報誌と共に担っていききたいと思います。



浜松ブロック 鈴木 健太
 どんな事が自分にできるのか実際分からないですが、自分の出来る事で皆さんにとって読みやすい興味が湧くような、広報活動が出来たら良いなと思っています。



富士・富士宮ブロック 小崎 純子
 コロナ禍で運動不足となり体重増加傾向の私です。皆様が元気になれるような情報を発信できればと思います。



静岡ブロック 川守 成太郎
 介護施設取材し、施設の取り組みを発信したり、会の事業の様子を写真や動画でタイムリーに提供します。

※研修会講習会情報はホームページ (<http://shizukai.jp/>) でも御案内しています。



お知らせ

令和2年度 身体拘束廃止フォーラム限定公開

- 講演 「高齢者の権利擁護と身体拘束廃止」
講師：高口光子
- 実践報告 「身体拘束廃止に取り組んで」
～成果と今後の課題～
- 公開日 令和3年2月1日～28日

**YouTubeで
限定公開!**

事務局より

ブロック活動等の打合せや会議に Zoomを活用しませんか!



現在のコロナ禍において、対面での会議や研修が困難になっています。地域に密着したブロック活動の歩みを止めない為に、打ち合わせや情報交換、親睦を深めるためのツールとしてZoomを活用しましょう!ご希望の方は事務局までご一報ください!

静岡県介護福祉士会のバックパネルが完成!

静岡県介護福祉士会のロゴとかいごっちのエンブレムをデザインしたバックパネルが完成しました。大きさは226cm×226cmとかなりの大きさですがとってもかわいくできましたよ!イベントブースの間仕切りとしても使え、インタビューやズーム研修の際にPRを兼ねてどんどん活用していこうと思っています!



会員更新のお願い

2020年度の会員更新をされていない方は、振込票がお手元に届いているかと思えますので、至急対応をお願いします。また、住所や名前等の変更、退会を希望される方は事務局まで連絡いただきますようお願いいたします。



編集後記

新型コロナウイルスの問題が顕在化し10ヶ月以上経ち、感染拡大防止のための新しい生活様式がすっかり日常化しています。社会情勢の変化から働き方がかわる職種もあります。介護現場でもオンライン研修、オンライン面会、マスクの着用の常態化等多くの変化がみられます。しかし、ケア場面はどうでしょう。今年9回目を迎えたケアコンテストもオンラインでの実施となりましたが、心温まる会話、そっとさしのべる温かな手、利用者さんとのかけがえのないコミュニケーションはかわることはありません。YouTube 視聴していない方、ぜひぜひ見てください。あらためて介護現場の温かさを感じますよ! 来春は笑顔ある日常が戻ることを願って・・・良いお年をお迎えください。

